

# 地域運営体の発足で新たな展開へ 自分たちで販売 直売所はコミュニティの場

松葉の中心国道105号十字路口にある直売所が地域運営体事業の一環で拡充され、毎週火曜と土曜に開いています。

直売所は松木内産地直売の会（浅利吉博代表・会員21名）が運営しています。地域のお母さんたちの強い希望が叶ったの増設でした。その喜びとともに、集会所のように地域コミュニティが活発となり、出荷に訪れるお父さんたちの表情も明るく、皆さん笑顔でいっぱいです。

その中の一人、武藤和子さんは「今までには卸しがほとんどだった。直売所は楽しい。みんなに直売所のことを覚えてもらいたい。そのため工夫や宣伝をしていきたい」と笑顔で意気込みを語ってくれました。

住民による地域の「にぎわい創出」です。地域の活性化に向けた取組み、これからの展開が楽しみです。

松木内運営体会長  
橋本左武郎さん



運営体をまとめる橋本さんは「ボランティア精神旺盛でありたい」といいます。「小さい集落が多く、まとまりが強く深いことが特徴。ただ昔ほどの元気がなくなってきた。ササラなどの発表の場がないから、秋に敬老会をやってその場でと、話し合っている。行政で手の届かないことをしたい」と、交流の強化を柱に取組を広げています。

## 今年度の主な事業

「産業振興推進大会/手づくりコンクール・講演会」「特産品開発」「地域文化の継承事業」「高齢者除雪・見守り支援」「内陸の乗車促進事業」「婚活事業」「地域安全・景観向上」



## 松木内直売所

取材したのは「タケノコ祭り」が行われていた6月12日(日)で、地元に限らず市内外からもお客様が訪れ、旬のタケノコを買い求めていました。商品補充もされ、新設の直売所とは思えないほど場慣れしていました。直売所の横ではタケノコ汁がサービスされ、地元の料理名人のお母さんの腕の見せどころ。大変好評で、活気に充ちていました。

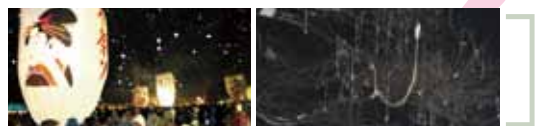


## わくわくマーケット

今年で8年目、上松木内にある紙風船館の横にある直売所&食堂が「わくわくマーケット」です。地域のお母さんたちで組織された紙風船会わくわくマーケット(中島勝子代表・会員15名)が運営しています。

手作りのゆべしや焼き餅、米粉のお菓子の加工販売、旬の直売、そして天ぷらにも地場産の材料を使った食堂が好評です。お昼やドライブの休憩地として利用され、普段着の接客でお店は活気づいています。

冠婚葬祭やお土産などで、地元のお客様から手作りのお菓子をご注文いただくことが多いそうです。また、常連のお客様と山菜やキノコを販売しており、地域と密着したお店づくりが人気の秘訣となっています。



地域運営体について：仙北市では地域の身近な課題を地域住民が解決するなど、地域住民の自発的、自主的な活動を行う地域運営体の設立をすすめています。市の予算を、特産品づくりや起業などに有効活用することもできます。市民分権を進め、行政も含んだ、総合的な仙北市の質を上げることがねらいです。